2016 年 1 月 8 日号
リスクフラッシュ 232 号

Risk Flash No.232
(Vol.6 No.30)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長　久保英也
〒522-8522　滋賀県彦根市馬場 1-1-1　TEL:0749-27-1404
FAX:0749-27-1189 **e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp**
Web page : http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2

●新年のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1
●シリーズ「映像制作授業における多様なツールを活用したアクティブラーニング型授業の展開」第 5 回：SA 任用における e-ラーニング教材作成関与・・・・Page 2
●リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・Page 2

新年のご挨拶

リスク研究センター長　久保英也（くぼひでや）

新年明けまして、おめでとうございます。

暖かく穏やかなお正月でしたが、ある種の季節的な違和感と将来の地球環境への不安を直感された方も多かったことと思います。また、中国経済や中東情勢の異変を背景に日経平均株価が大発会において 600 円近くも下落するなど、2016 年も短期、長期のリスクと寄り添う年となりそうです。それは滋賀大学リスク研究センターにとりましても、存在価値を改めて問われる 1 年であることを意味します。

目を学内に転じますと、皆様も既にご存知の通り 2017 年度から滋賀大学に新たにデータサイエンス学部が創設されます。この中で、リスク研究センターは、文理融合型研究と国際展開（地域戦略を国際的に進めるグローカル戦略）を主導したいと考えています。

具体的には、 ①アジア 4 大学（中国、ベトナム、韓国、日本）で共有した環境課題と環境資金の調達を共通テーマとした本格的な共同研究を推進。

②その研究手法は、「リスク」と「環境」を対象とした文理融合型研究（手を組む相手は、琵琶湖環境科学研究センターと東京大学生産技術研究所）とし、新学部のデータサイエンス学部とも連携。

③切り口の 1 つとして、環境保全資金を政府の一般財政や国際機関の援助で確保するのではなく、金融市場から直接調達する「環境リスクファイナンス」とし、アジアにおける同研究を主導。

④この環境リスクファイナンスをデータサイエンスの応用分野の 1 つとして育て、その成果を新学部や国公立大学で唯一の「リスク専攻」博士後期課程を有する大学院の教育に還元し、国際感覚に優れた学生を育成することに注力、したいと考えています。

リスク研究センターは、陵水会の皆様のご支援を賜りながら、更なる研究の深化・拡大と教育支援の充実に努めていきたいと思います。

第 3 回　リスク研究センター「アジア経済セミナー：マレーシア・テナガ大学ルッシーナ博士の講演」
2015 年 12 月 18 日開催（於：滋賀大学士魂商才館）

シリーズ「映像制作授業における多様なツールを活用したアクティブラーニング型授業の展開」第５回

SA 任用における e-ラーニング教材作成関与

特任講師　庄司一也（しょうじかずや）

プロジェクト科目「映像表現入門（ひこねびと第 3 弾）」では、授業をサポートする SA(study assistant)に同科目を卒業した在学生（上層学生）を任用し、e-ラーニング（SULMS）用映像教材ほか各コンテンツの作成を担当させました。このような取り組みを行った理由は、アクティブラーニングにおける学生主体での学びあいには、教員のみならず、学生自身の積極的な教材作成や教授・学習における関与が必須であり、それが学習効果を高めることに寄与すると考えたからです。

具体的な SA の業務としては、講師の講義（解説）風景を iPad で撮影し、その後テロップやアニメーションなどの編集を行い効果的な教材コンテンツに仕上げ、SULMS にて配信しました。

SA（学習アシスタント）は iPad を使用して撮影から編集までを行いました。特に編集作業においては「学生目線」で効果的なテロップやアニメーションなどの工夫をしてくれました。

「学びあい」であったり、「学生主体の学習環境の提供」などは他の多くの大学でも取り入れられていますが、「e-ラーニング教材作成に学生が関与する（映像教材を制作する）」という取り組みはあまり例が見られず、ユニークであると考えています。

また、SA に任用した学生はすでに十分な映像制作スキルを持っており、今回の映像制作の活動（映像作品の実用化）を通して、より一層そのスキルが高まったものと思っております。

さらに今回の映像制作においては、教員では気づかない視点や「学生目線での映像作品の制作」となり、大変価値ある教育実践となりました。

今後も、本学の優れた機能を搭載する SULMS に学生を積極的に関与させ、よりよい映像教材を制作できればと思っております。

【学生制作・教材ビデオ】（本学 e-ラーニングシステム・SULMS で配信済）
●本科目を e-ラーニングシステム・SULMS で学ぶ意義
URL：https://www.youtube.com/watch?v=Mb0TvmGiLk8
●「映像表現入門（ひこねびと第 3 弾）」授業風景（平成 27 年 9 月 10 日）
URL：https://www.youtube.com/watch?v=hFd9Wwvpafo

リスク研究センター通信

平成 28 年　1 月 13 日（水）リスク研究センターセミナーを開催予定です。

日　時：平成 28 年 1 月 13 日(水) 12：50～14：20
会　場：滋賀大学彦根キャンパス　ファイナンス棟 1 階　第 21 番講義室
演　題：証券アナリストの役割
講　師：貝増眞氏（日本証券アナリスト協会 部長）
司　会：楠田浩二氏（滋賀大学経済学部教授）

■詳しくはこちら
http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/5/12:8　をご覧下さい。

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】
1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】
1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】
1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】
1. 配信メールが回線上の問題（メールの遅延，消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】
1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12 ）

＊当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、
菊池健太郎、金秉基、久保英也、
柴田淳郎、得田雅章、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局
（Office Hours：**月ー金** 10:00-17:00）
〒522-8522　滋賀県彦根市馬場 1-1-1
TEL：0749-27-1404　FAX：0749-27-1189
e-mail:　risk@biwako.shiga-u.ac.jp